

Vol.200

院長 関の

Face to Face

2025年2月1日発行

ネオニコチノイド系という農薬をご存知でしょうか。害虫だけを効果的に駆除し、人体や他の生物に安全との触れ込みでおよそ35年前から急速に普及した農薬です。害虫だけを駆除するなんてそれだけで胡散臭いと気付きますが、実際、ミツバチの生息数が激減するなど生態系への異変が相次いで報告されるようになりました。日本の環境脳神経科学情報

発達障害と農薬の関係



センター副代表で、医学博士の黒田氏は、ラットの発育期の培養神経細胞を使った実験を通じて、ネオニコチノイド系農薬が人を含む哺乳類のニコチン性受容体（神経伝達に欠かせないたんぱく質）に直接作用する：という論文を発表。近年の日本における発達障害の急増の原因は、遺伝ではなく、ネオニコチノイドが大きく影響していると述べています。その後EUは、この論文

やデータを検討した結果、「学習・記憶などの機能に関連する神経系や脳の発達に悪影響を与える」という理由で2020年までに事実上使用禁止となりました。洗っても落ちない「浸透性」、長期に残留する「残効性」、神経を障害する「神経毒性」を持つ「殺虫剤」であるネオニコチノイドを、我が国は規制どころか残留基準値を従来の13倍にも緩和しているのです。恐ろしいと思いませんか？

虫がつかない農作物の異常さを消費者である我々もしっかりと認識しなければなりません。



関 修一（せきしゅういち）

健育会 東銀座整骨院・整体院・

鍼灸院・マッサージュ院 院長

代替医療の総合治療院としての

確立を目指す。タイトルのFace

to Faceは「患者さん自身と向き

合って患者さんの症状と闘うこ

とを願ってつけた

※毎月一日の発行です